



Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代) FAX 0968-44-0071(連携室直通)

「薬と健康の週間」と「薬薬連携」について

医薬品の適正な使用と、その目的達成に対する薬剤師の役割を多くの方へ知っていただくために、毎年10月17日から23日までの一週間を「薬と健康の週間」と位置づけて啓発活動を行っています。



さて、この啓発活動の主軸は、かかりつけ調剤薬局とそこに従事する薬剤師が担う業務や機能を紹介し、地域医療の質の向上への寄与を多くの方に実感していただくことにあります。調剤薬局の薬剤

師の業務といえば調剤を連想されますが、業務はこれだけではありません。複数機関からの重複投薬の回避、ポリファーマシー※1の解消による服薬状況の改善、残薬の整理、セルフメディケーション※2の一環として市販薬や健康食品と処方薬との飲み合わせの相談、電話による24時間体制の問い合わせ対応など、薬剤の適性使用に貢献できるような業務を展開しています。

また、薬剤師の活動に関して薬局の他に、学校薬剤師として学校の環境保全への取り組みや、薬物乱用防止に関する講義を通して正しい知識の普及に努めています。

更に近年、災害発生時に避難所等へ医薬品供給、新興感染症発生時の自宅療養者への調剤対応や衛生材料の提供などの新たな取り組みも進めていま

す。

ここで、調剤薬局と病院の薬剤師のつながりについても紹介いたします。安全で適正に薬物治療が継続されるために、「薬薬連携」と称して情報を共有し連携を図っています。情報共有の道具として最も効果を上げているのが「お薬手帳」です。お薬手帳の運用により処方内容だけでなく、副作用歴やアレルギー歴など薬剤を安全に使用する上での情報も共有することが出来ますし、調剤条件で注意する点などがあれば、その情報を書き加えるなど柔軟な運用も可能です。もちろんより詳細な情報の共有が必要な場合は、直接意見を交換することも少なくありません。

薬薬連携における連携とは更に広い意味でも機能しており、研修会を相互に乗り入れして薬物治療とその周辺の情報や知識を共有し、双方が同じ方向を向いて薬物治療に取り組めるように努めています。その一環として当センターでは、地域の薬剤師会と協力して薬学関連の公開薬剤師研修会を開催しています。それに加えて、調剤薬局が当センターからの院外処方を応需した際に、より安全かつ適切に調剤を行えるよう調剤条件の一部についてのプロトコル(手順)の策定を推し進め、より一層の連携強化と地域医療への貢献を目指してまいります。

薬と健康の週間を機に、少しでも皆さまに薬剤師への理解を深めていただければ幸いです。

※1 ポリファーマシー：多剤併用を指す造語

※2 セルフメディケーション：自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること

(文責：主任薬剤師 松尾 貴史)

CONTENTS

- 「薬と健康の週間」と「薬薬連携」について…… P 1
- 山鹿灯籠まつりの救護活動を終えて …… P 2
- IT-BCP訓練を実施しました …… P 2
- 医療最前線 (169) …… P 3
- 第84回公開講演会のご案内…… P 3
- 外来担当医表 (10月) …… P 4

山鹿灯籠まつりの救護活動を終えて

山鹿灯籠まつりは、400年以上の歴史を持つ山鹿市の伝統行事であり、金灯籠を頭に載せた女性たちが優雅に舞う「灯籠踊り」は、全国的にも有名です。その幻想的な光景を一目見ようと、毎年多くの方が来られます。今年は両日合わせて約12万人来場され、15日の納涼花火大会では、菊池川河畔で約4千発の花火が夜空を彩りました。今年も灯籠まつり救護班として当センターの看護師5名が参加し、灯籠まつり本部（湯の端公園）、花火会場、千人踊り会場内で、救護活動を行いました。救護班の主な役割は、体調不良や怪我をされた方の対応、救護要請が生じた際の救急搬送の判断と対応です。当日は、猛暑の中、来場者も多く、熱中症や脱水症状を訴える方の対応を行いました。幸い、症状は徐々に落ち着かれ、ご家族のもとへ無事



に戻られました。2日間を通して、重症となるような方はおられず、軽症の方の対応を行いました。救護班は、限られた時間と設備の中で来場者の安全と健康を第一に考え役割を果たすことが求められます。今年は、千人灯籠踊りを目前に控えた時に、突如として雷雨に見舞われ、残念ながら直前で千人灯籠踊りの中止が決定されました。山鹿に来場された方々や、踊り手の方々、準備に携わった裏方のすべての方々の思いや努力を思うと、とても残念で悔しい思いでいっぱいになりました。来年こそは天候にも恵まれ、無事にすべての催しが開催されることを心から願っています。これからも歴史ある山鹿灯籠まつりを楽しみに来られる多くの方々に安心して楽しんでいただけるように、来年も山鹿灯籠まつりに携わり、地域の大切な伝統とともに皆さんの安全に貢献していきたいと思えます。

(文責：4階病棟看護師 有富 美恵子)

IT-BCP訓練を実施しました

IT-BCP (Information Technology - Business Continuity Plan) とは、システム障害発生時の事業継続計画です。近年、大阪急性期・総合医療センターなど、電子カルテがランサムウェアに感染したことにより診療停止に陥る事例が増えており、当センターでも障害に備えてIT-BCPを策定し、8月7日(木)に訓練を実施しました。

●対策本部訓練

病院長への「電子カルテが全て使えません」の連絡で訓練を開始し、対策本部設置、システム障害と診療能力の把握、紙伝票による診療継続の判断、診療体制縮退の判断、院内連絡、厚生労働省の窓口への連絡の演習や翌日以降の診療体制の検討を行いました。

●外来診療訓練

電子カルテが使えない状態を想定し、紙伝票と電話連絡による模擬患者の問診、診察、処方、採血、放射線検査を行いました。事前に紙伝票のチェックをしていたので、計画に沿ってスムーズに実施することが出来ましたが、古い書式の紙伝票や紙伝票の

記載見本が無く記載方法がわからないこと、紙カルテ作成時の新患登録のルール作りなど多くの課題が見つかりました。



●訓練を終えて

今回の訓練では病院長、部門長、外来が連携し、紙伝票への移行や必要な連絡など、速やかに実施することができました。今後は訓練を通して見つかった課題に取り組み、IT-BCPをより良いものにして行きます。システム部門としては、今回の訓練を通して、有事に備えて平時から準備しておくことが大切である事と、そもそもシステム障害を発生させない対策の重要性を再認識しました。今後も地域医療の安全と診療の継続性を高めるため取り組んでまいります。

(文責：医事係長 安永 和広)

医療最前線 (169)



膀胱癌について

泌尿器科医長
今藤 淳之助

膀胱癌は、日本国内だけでなく世界的にも増加傾向にある癌の一つです。「膀胱」とは尿を一時的にためる袋状の臓器で、私たちの排尿に欠かせない役割を担っています。日本では毎年約2万人が新たに膀胱癌と診断され、特に男性に多く、女性の約4倍の頻度です。これは喫煙率の差や、染料・ゴム・皮革などの工業製品に関わる職業性曝露が影響していると考えられています。発症は60歳以上が中心ですが、若年層でも稀にみられるため注意が必要です。

主な危険因子には、喫煙、職業性曝露、慢性膀胱炎、尿路結石、過去の抗がん剤や放射線治療などが挙げられます。特に喫煙は最大のリスク因子であり、膀胱癌患者の半数以上に喫煙歴があるとされています。代表的な症状は「血尿」で、特に痛みを伴わない「無症候性肉眼的血尿」が多く見られます。尿に血が混じるのは一時的なこともあります。放置せず受診することが大切です。初期には症状が乏しいため、健診や他の検査で偶然発見されることも少なくありません。

検査はまず尿検査や超音波検査を行い、膀胱癌が強く疑われる場合は膀胱鏡検査やCT、MRI検査が進められます。治療の第一選択は、内視鏡を用いた「経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)」です。当

センターでも多数の症例に対応しており、術後は再発予防のため膀胱内への抗がん剤やBCG注入療法を行うことがあります。膀胱を残す手術のため再発率は高く、定期的な通院でのフォローアップが必要です。

一方、膀胱深くにまで進行した「筋層浸潤性膀胱癌」では、膀胱全摘術や化学療法など集学的治療が必要となり、当センターでは、筋層浸潤が確認された場合は治療可能な連携病院へご紹介しています。なお、転移を有する方など手術が難しい方への化学療法は当センターで行うことが可能です。近年は免疫療法の導入により治療の選択肢が広がっており、2024年からはエンホルツマブ ベドチン (抗体薬物複合体) とペムブロリズマブ (免疫チェックポイント阻害薬) の併用が保険適応となりました。副作用は強めですが、従来より治療成績が向上しており、新しい標準治療として注目されています。

さらに、病状が進行し積極的な癌治療の継続が難しい段階に至っても、患者さんとご家族が安心して過ごせるように支援を行っております。当センターには緩和病棟があり、痛みや不安を和らげながら、住み慣れた地域で最期まで過ごすことができます。

最後に、膀胱癌は早期発見・早期治療が重要な癌です。血尿など排尿時の症状を認めましたら早めに泌尿器科にご相談いただけますと幸いです。

第84回公開講演会のご案内

(日本医師会生涯教育講座 1 単位)

取得カリキュラムコード 番号・コード名
65. 排尿障害 (尿失禁・排尿困難)

下記により第84回講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典
山鹿市病院事業管理者 別府 透

記

日時：令和7年10月10日 (金) 19:00～
形式：ハイブリッド方式(オンライン参加or会場参加)
会場：オンライン参加 / Zoom ミーティング
会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター
演題：「夜間頻尿に対するアプローチ」
司会：山鹿市民医療センター 院長 石河 隆敏 先生
演者：山鹿市民医療センター
泌尿器科 中村 圭輔 先生

参加費：無料

【参加要領】下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

(参加URL) : <https://zoom.us/j/92251274397>

(参加QRコード) ⇒

ミーティング ID : 922 5127 4397

パスコード : 908004

※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。
※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。



お問い合わせ先 📍 山鹿市民医療センター
地域医療連携室 西田、古家
TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会

山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表

10月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※古川 嗣大	※赤池 公孝	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹熊 梨祐	本原 利彦	中垣 貴志 竹熊 梨祐	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	※中山 智子 清水 博	清水 博 大庭 圭介	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 樽美 備一 山口 裕介	工藤 智志 樽美 備一 山口 裕介	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透(新患のみ) 石河 隆敏 / 増田 稔郎 辛島 龍一 / 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 増田 稔郎 辛島 龍一
乳腺外科(予約制)	—	※富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	中村 圭輔	手術(担当医)	今藤 淳之助	※神波 大己 教授	中村 圭輔
小児科	小澄 将士	小澄 将士	小澄 将士 (午後：予防接種)	小澄 将士(午前) ※石井 真美(午後)	小澄 将士
*小児科の午後は、16：00受付終了となります					
耳鼻咽喉科(予約制)	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	手術	特殊再来のみ	古島 京佳	古島 京佳	古島 京佳(午前) 非常勤医師(午後)
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※片渕美和子(午後) (受付13:00~16:00) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師 (午前)
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科(予約制)	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	泌尿器科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週：担当医 偶数週：吉岡明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00 ※非常勤医師です。 ★第2、第4のみ診療となります。
 ◎当日の受診に関する相談を除くお電話は、平日14時から17時までが受付となります。

特殊・専門外来【予約制】

10月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	※宮本 英明	毎週 金曜(がん薬物療法専門医)	
睡眠時無呼吸外来	担当医	—	Aブロック
小児科予防接種	小澄 将士	毎週 水曜(受付時間13:30~16:00)	Bブロック
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜(午後)	
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜(午後)	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎急患の場合は、この限りではありません。
 ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。
 ◆睡眠時無呼吸外来については、現在は新規予約の受付を行っていません。
 ◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

 山鹿市民医療センター
 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)
 FAX 0968-44-0071(連携室直通)
<http://yamaga-medical-center.jp>